

台風19号と鬼怒川上流ダム群の貯留効果について

速報

鬼怒川の4ダムでは、流入量の増加に伴い、利水用の貯水量を回復させるためにダムへの貯留操作をおこないました。
その結果、鬼怒川の水位低下にもつながりました。

1. 各ダムの流入量と放流量の状況

※4ダムの合計流入量が最大となった10月14日2時20分の各ダムの状況

川俣ダム

①流入量	毎秒	60	立方メートル
②放流量	毎秒	0.1	立方メートル
③貯留量(1秒当たり)	毎秒	59.9	立方メートル

川治ダム

①流入量	毎秒	240	立方メートル
②放流量	毎秒	25	立方メートル
③貯留量(1秒当たり)	毎秒	215	立方メートル

湯西川ダム

①流入量	毎秒	78	立方メートル
②放流量	毎秒	0.6	立方メートル
③貯留量(1秒当たり)	毎秒	77.4	立方メートル

五十里ダム

①流入量	毎秒	95	立方メートル
②放流量	毎秒	17	立方メートル
③貯留量(1秒当たり)	毎秒	78	立方メートル

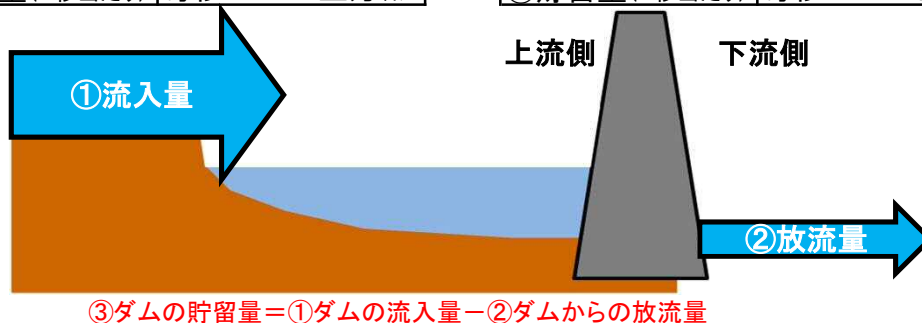


図1 ダムの状況

4ダム合計貯水量

10月13日12時 13,615万m³ → 10月14日12時 14,907万m³ (1,292万m³の増加)

2. ダム群が貯留したことにより想定されるダム下流水位の低減

ダム群が貯留したことにより、鬼怒川温泉下流の小佐越地点の水位を、ダムが無いと仮定した場合の水位と比較して、**1.6m**低下させることができたと想定されます。

※「ダムが無いと仮定した場合の水位」は、当該時刻の各ダム地点の貯留量の合計をダム下流の鬼怒川小佐越地点の水位低減量に換算しています。

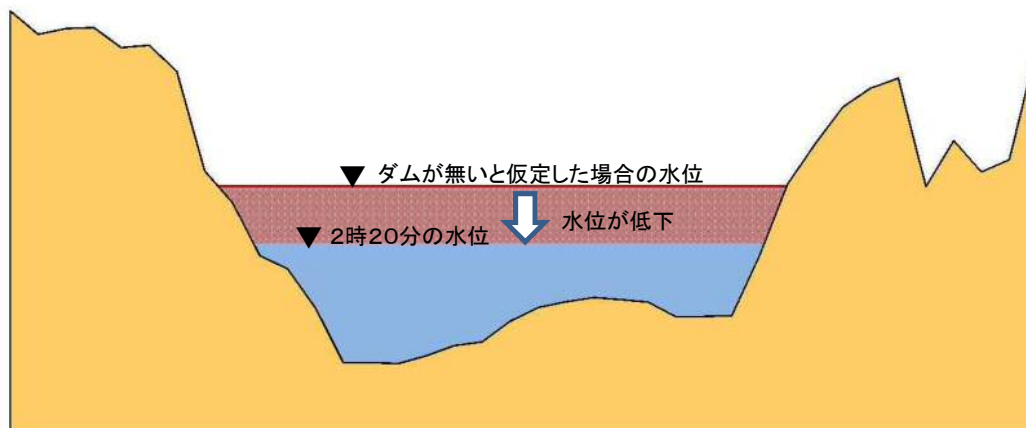


図2 ダム群により想定される水位の低減(小佐越地点)

※図1、図2はダム等の状況を説明するため模式的に表現したものであり、実際の状況とは異なります。

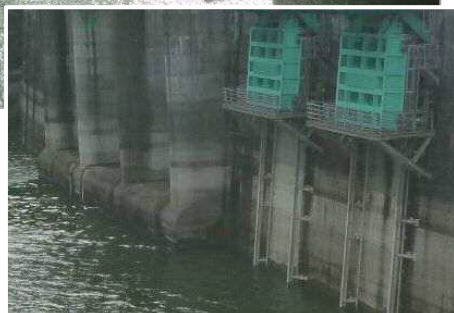
台風19号の鬼怒川上流ダム群の貯留状況

五十里ダム

貯留前



貯留後



五十里ダム流域雨量 81.3mm (10月13日12時～10月13日12時)

湯西川ダム

貯留前



貯留後



湯西川ダム流域雨量 114.6mm (10月13日12時～10月14日12時)

台風19号の鬼怒川上流ダム群の貯留状況

川治ダム

貯留前



貯留後



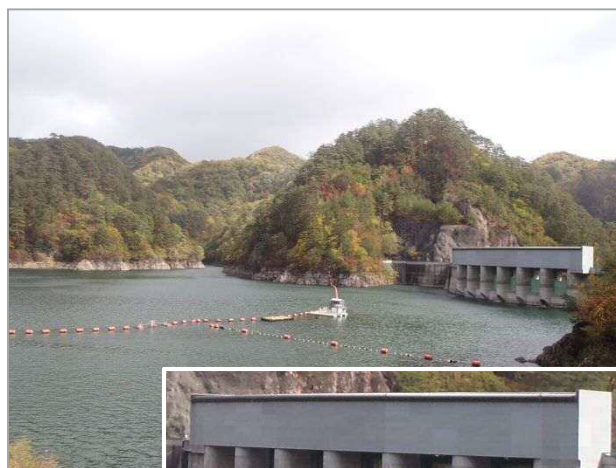
川治ダム流域雨量 136.2mm (10月13日12時～10月14日12時)

川俣ダム

貯留前



貯留後



川俣ダム流域雨量 85.8mm (10月13日12時～10月14日12時)